鰐石橋

伏野川に架かる鰐石橋は萩往還の名所の一つとして、椹野川を横切る鰐石橋は、川岸の岩がワニに似ていることから名づけられました。川の水位が上昇し、岩の一部が水没していた時にはワニが口を開けたように見えたと言われています。

萩往還は山口県北部の萩市から山口市の中心部を経由し、山口県南部の防府市までの間を結ぶ街道です。この街道は長州（現在の山口県）藩主である毛利家の領地を結び、日本海と瀬戸内海の間での輸送や取引を行うために 1604 年に整備されました。

山口市が近代都市として発展する前、鰐石橋の架かっている場所が町の外れでした。瀬戸内海を船で行こうとする人々はこの橋を渡って旅立ち、旅から戻った人々はこの橋を渡って現在の山口市に帰ってきました。また、長州藩主とその従者たちは、隔年で江戸との間を行き来するよう徳川幕府から命じられていました（参勤交代制度）。約 1,000 キロ離れた江戸 (現在の東京) へ向かう際には、町の人々がこの橋で見送ったことでしょう。

橋の横にある岩（鰐石）の造形は写真家に人気があり、詩の題材として詠まれたこともありました。岩の前には、14 世紀、京都に向かう途中でこの地に立ち寄った明王朝の使者が詠んだ詩を刻んだ石碑が立てられています。